

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

| | | | |
|---------|------------------|------------|---------------|
| 事業所番号 | 2772201790 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 久栄会 | | |
| 事業所名 | グループホームみのり苑 | | |
| 所在地 | 大阪市生野区巽中2丁目14番1号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 30年 11月 21日 | 評価結果市町村受理日 | 平成 31年 1月 11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2772201790-00&PrefCd=27&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 |
| 所在地 | 大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内 |
| 訪問調査日 | 平成 30年 12月 12日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数で家庭的な雰囲気の中で、ご利用者一人ひとりが気持ちよく自分のペースで過ごせるように努めています。ご利用者の状態を維持し自分らしく生活できる事に近づけられるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立から20年以上、地域との結びつきを大事に在宅ケアの拠点として、地域福祉に貢献している社会福祉法人が、養護老人ホームに併設して、1ユニット6名の少人数のグループホームを開設して14年目を迎えています。平成25年には共用型認知症対応型デイサービスも開始しました。一日平均1.5名利用の認知症デイサービスには、グループホームの利用者の母親や姉も利用して、一緒に過ごせる機会ができました。親や身内の高齢化、家族介護、利用者の重度化・多様化が進み、それぞれの担う課題は重く深くなる中で、生まれ育った地域の中で暮らし続けたいという願いに応えられるように、安心安全な生活環境を作りながら、利用者により添ったケアの実践に努めているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | GHの方針を明文化しホーム内に掲示している。理念に基づいた介護が大切であると考えているが、職員同士で話し合う機会がなく深く浸透していないと思われる。 | グループホームの方針を「少人数・家庭的な環境を活かし、利用者一人ひとりの個性と主体性を大切にしたい援助を目指す」「落ち着いた雰囲気の中で過ごし、ご家族・地域との関係を継続していける援助を目指す」と定め、掲示して共有をしています。職員は暗唱することができます。地域密着型サービスの意義をふまえて新入職の職員にも浸透できるようにと考えています。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 地域で毎月行われている異サロン、異喫茶などへ参加している。また法人の開催する納涼祭へは地域からも多数の来苑があり盛り上げて頂いている。玄関前のベンチや散歩に出掛けた時は職員の方からも挨拶をしており、顔馴染みの関係が築けるように努めている。 | 法人理事長の出身地元であることから、自治会には法人として加入しています。府民センターでの地域の防災会議への参加をはじめ、社協が主催の地域のふれあい事業に協力するなど、地域とのかかわりを積極的に行っています。近くのスーパー、薬局の店員とも顔なじみになっています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 3 | | <p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p> | <p>グループホームとしては活かす事が出来ていないと思われる。</p> | | |
| 4 | 3 | <p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>2ヵ月に1度開催し、入居者の状況や活動報告を行っている。ご家族からも意見を頂戴する事があり、役立てるよう努めている。</p> | <p>運営推進会議は、地域包括支援センター職員、地区に居住の社会福祉協議会会長、利用者の家族でもある地域住民等の参加を得て、2ヵ月に1度開催しています。利用者家族には全員に声をかけ、毎回2、3人の家族が参加しています。ホームから運営、事故に関する報告、社協から地域行事の案内があり、意見交換の場となっています。</p> | |
| 5 | 4 | <p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p> | <p>必要に応じて連絡を行っている。</p> | <p>区の担当課には事故報告を提出し、日頃から相談や情報交換をしています。市からは研修案内をもらい、外部評価結果や運営推進会議を1年分まとめた議事録を提出しています。集団指導には地域密着型サービスとして出席しています。</p> | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | <p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | <p>玄関の施錠に関しては入居者の安全を考え、施錠しているがベンチで外気浴中等には解錠するようにも心掛けている。 具体的な身体拘束の行為については全職員が知っておくようにする必要があるので、勉強会や研修を行う必要がある。</p> | <p>玄関は利用者の安全への配慮から基本的に施錠をしています。テンキーによる開錠が可能となっていますが、利用者には難しい状況です。しかし、利用者の素振や様子から帰宅願望や、外出希望が見受けられる際には玄関から出て外気浴で気分転換を図ったり、外出に同行するなど、利用者の思いに添うようにしています。身体拘束、虐待についての研修も法人主催の研修に参加する他、併設の養護老人ホームと職員研修ができるように体制づくりを考えています。</p> | |
| 7 | | <p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> | <p>職員一人ひとり意識しており虐待の防止に努めることが出来ていると思うが研修など学ぶ機会は少ない。</p> | | |
| 8 | | <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p> | <p>学ぶ機会が少なく、活用はできていない。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9 | | <p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>事業所からの一方的な説明にならないように確認しながら行っている</p> | | |
| 10 | 6 | <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>運営推進会議により地域やご家族の方からの意見を聞く機会があり、ご家族とは面会時以外にも電話連絡で近況報告など行っており、ご家族の思いや希望を確認するよう努めている。</p> | <p>家族とは利用者の事について、個別に話す機会を設けるようにしています。「毎月のお便り」で利用者の様子やホームでの生活の状況を伝え、計画書の見直しの際にも家族の意向を確認しています。来訪時にはできるだけ意見や要望を聞くようにしています。</p> | |
| 11 | 7 | <p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | <p>職員個々が定期的に運営に関する事を伝える機会は少ないが、事柄により管理者へ提案している事はある。基本的には職員からの意見、提案があればまず主任へ伝え、その都度代表者や管理者へ伝え反映していくようにしている。</p> | <p>月に1度の職員会議では主に利用者のケアについて話し合っています。年に2回個別に面談を実施して、職員の意見や要望を聞く機会を設けています。職員からの要望でトイレの消音機や加湿器の設置を実現した例があります。府・市で開催されるグループホームに関する研修に参加を促し、研修に必要な費用を法人が負担するなど、職員の学ぶ機会を支援しています。</p> | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | <p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p> | <p>年1回職員面談を行い意見や希望を聞いている。その際に職員個々へ改善してもらいたい事などを伝えている。 職場環境や条件の整備については今後も改善していくことが必要と思われる。</p> | | |
| 13 | | <p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>働きながら経験を積むことは出来ていると思うが、個々に合った研修を受けてもらうことが少ない。</p> | | |
| 14 | | <p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>大阪市老人福祉施設連盟グループホーム分科会や生野区グループホーム・小規模多機能連絡会を通じて研修、意見交換を行いサービスの質の向上を目指している。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の希望や考えていること等を普段の会話から感じ取るように心掛けています。信頼関係を築くことが安心して生活して頂けることに繋がると考え、利用者と職員が1対1で話す機会も出来るだけもっている。ただし、知り得た情報を積み重ねていく事が出来ていない。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初期にはご家族の希望や不安などを聞き取りしている。また、家族との関係は大切な事であると理解し、面会に来られ時には職員から積極的に話しかけ入居者の様子などを伝えている。ご家族とも話しやすい関係作りを大切にしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 必要に応じて他のサービスの説明や当事業所についての説明を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | <p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p> | <p>食事作り、洗濯物、テーブル拭き、花の水やりなど入居者一人ひとりの出来る事・興味のある事を見つけ手伝って頂くように接している。また、ご本人が自分で出来ることは極力介助を行わず見守るように気を付けている。寂しい思いや不安感が続かないように気を付けている。</p> | | |
| 19 | | <p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p> | <p>行事への参加、受診をお願いし、その際の電話で本人の近況や体調・気分をお伝えしている。面会時にも同様に近況をお伝えし、本人についての情報をお聞きするなどしている。 また、入居者に関わる事をスタッフだけで決定してしまわないように気をつけご家族へも確認している。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | 8 | <p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p> | <p>馴染みの場所への外出機会は少ない。ご家族をはじめ病院や薬局などでいつも会う方とはよく話しをされている。</p> | <p>親戚や友人など多くの来訪者があり、職員は馴染みの関係を大切に快く受け入れています。特養の訪問理容を新たな馴染みとして利用する利用者や、家族と外出時に行きつけの美容室に行く利用者もいます。家族との外出を楽しむ利用者もいます。利用者の母親や姉が共用型認知症デイを利用することで、途切れない関係の継続に繋がっています。</p> | |
| 21 | | <p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p> | <p>利用者同士でお話されている事が少ないため、職員の気配りや活動を通して利用者同士が関わり合う場が増えていくよう取り組みたい。 テーブルを囲み一緒に洗濯物たたみを手伝われたり、玄関のベンチで過ごす事があり良い雰囲気となるよう努めている。</p> | / | / |
| 22 | | <p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p> | <p>長期入院中の荷物の預かりや、介護認定更新に際して相談を受け対応している。</p> | / | / |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人へ尋ねたり、ご家族から聞く事で以前の暮らしや性格をふまえて職員間で相談している。また、日々の生活の中で、その方が発した言葉や表情・行動などから、その方の思い・希望・生活スタイルを把握できるように努め利用者本位となるように検討している。 | 重度化により意向の把握が難しい場合もありますが、利用者の思いや希望は普段の会話の中のワードから聞き取るように努めています。また家族からも都度情報を得ています。聞き取った要望は、職員が情報を共有する連絡ノートに記録しています。利用者に好きなものを聞いて一緒に買い物に出かけることもあります。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族との普段の会話からも習慣など色々な情報を取り入れられるようにしている。集めた情報がまとめられていない。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | さりげなく見守りを行うことを大切にし、自分のペースで過ごしてもらえるように気をつけている。本人の行動・表情・会話などに気を付け、心身状態の変化の把握に努めている。 スタッフ同士で入居者に関する情報交換を行い把握に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 10 | <p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p> | <p>月に1度のグループホーム会議をはじめ、日頃から気付いた事、問題点などがあれば職員間で話し合い課題やケアのあり方を共有していくようにしている。</p> <p>ご家族とは面会時や電話連絡にて現状を伝え相談している。</p> | <p>職員会議で出された課題やカンファレンス、計画作成担当者がまとめたモニタリングを基に、概ね3か月毎に計画書の見直しを行っています。家族からも退院後の状態変化や取り入れて欲しいことなどを聞いて、計画書に反映するようにしています。更新した計画書は家族の来訪を待たずに郵送しています。同意のサインを記入後、計画書を返送してもらっています。</p> | |
| 27 | | <p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p> | <p>日々の様子や、いつもと違った変化などについて個別に記録している。</p> <p>申し送りや連絡ノートを活用し注意事項などについても職員間で共有しやすくなっている。記録の積み重ね、情報の共有を介護計画へ活かしている。</p> <p>こまめな記録が出来ている。</p> | | |
| 28 | | <p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p> | <p>要望に応じ柔軟な対応を心掛けて行っている。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | <p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p> | <p>必要に応じて協力をお願いしている。</p> | | |
| 30 | 11 | <p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>本人や家族の希望、了解をもらいホーム近くの医院をかかりつけ医にされている方が多いが、入居前からの医院を継続されている方もいる。 特変時や必要のある際には受診の付き添いを行い、電話にて相談も行っている。</p> | <p>ほとんどの利用者は近くのクリニックをかかりつけ医として、常日頃から対応してもらっており、以前からのかかりつけ医に受診している利用者もいます。 同法人特養の訪問歯科に必要な時のみ診てもらうこともあります。また、併設の養護老人ホームの看護師にも相談に乗ってもらい、安心に繋がっています。</p> | |
| 31 | | <p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p> | <p>併設施設の看護師と必要に応じて相談・報告し連携している。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | <p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p> | <p>入退院時には、面会や電話連絡にて本人の状態把握に努めている。 病院側の担当者からも随時、連絡を頂くことが出来ている。 入退院についてはかかりつけ医とも情報交換し連携し対応している。</p> | | |
| 33 | 12 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p> | <p>本人の状態の変化、重度化した際には、その都度家族との話し合いの機会をもつようにしている。 特に何らかの医療的な対応(点滴など)が常に必要となった際には家族・かかりつけ医を含めて今後について検討するようにしている。</p> | <p>ホームでは設備的観点から看取りについては行わないことにしていますが、医療的ケアが必要となった時点で家族とクリニックの医師を交えて話し合いを行い、本人と家族の意向を確認したうえで今後の方針を決めています。 医療処置が必要な状態になった時には、医療機関に入院など、思いに添いながら理解が得られる対応に努めています。</p> | |
| 34 | | <p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p> | <p>救急対応時のマニュアルを作成し、応急手当などの書面と併せて緊急時に備えている。会議等で対応について質問や話し合うことが出来る。 定期訓練は行われておらず、急変時の対応についても個人差があり、研修・勉強会が必要と思われる。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | 13 | <p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p> | <p>災害時のマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。 職員は非常口、消火器の場所を把握できており、倉庫には非常時備蓄品を準備している。 スタッフ全員が避難対応を行えるか、地域との協力体制が築けているかという事に関しては不十分で改善が必要である。夜勤帯に関してはマニュアルを確認するだけでは不安であると感じている。</p> | <p>防災マニュアルを整備し、消防署指導による避難訓練を含み、年2回の消防訓練を実施し、消防署に実施計画と報告を行っています。避難訓練は併設する養護老人ホームと合同で行っています。夜間は建物内にホームの夜勤職員、養護老人ホームの夜勤職員、建物の宿直者のみと少人数の対応が必要となるため、夜間を想定した訓練も行っていきます。非常・災害時の備蓄(水、おかゆなどの食料、カセットコンロ)などの賞味期限を確認しながら、水害を想定して3階に保管しています。</p> | <p>避難訓練については、運営推進会議で地域の相互協力体制について議題にするなど、訓練への参加を得られるようにして、非常時に地域住民に協力が得られるような関係作りをされてはいかがでしょうか。</p> |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | <p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p> | <p>入居者一人ひとりの気持ちを大切にしプライバシーを損ねないような言動を常に心がけて対応している。 一人ひとりの人格を尊重し辛い気持ち・羞恥心・不安感・不快感に配慮した言葉を選ぶように気をつけている。</p> | <p>ホームの理念である方針を基に、利用者一人ひとりの尊厳と人生の先輩として尊重し、プライバシーに配慮した関わりを行っています。職員の言葉かけはやわらかく、丁寧です。職員は法人主催の研修に参加し、接遇・言葉づかい、個人情報保護について慎重な対応を心がけています。</p> | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p> | <p>日常の中で一人ひとりの声に耳を傾け本人の思いを大切にしている。 利用者の希望や行動を優先し選択肢などを分かりやすく説明し自己決定や希望を導くような対応を行っている。 意思疎通の難しい方への対応は不十分と思われる。</p> | | |
| 38 | | <p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>一人ひとりの様子を見守りながら、本人のペースで生活ができるように支援している。業務に追われる事もあるが利用者の事を優先するように気を付けている。</p> | | |
| 39 | | <p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p> | <p>季節ごとに家族・職員によって衣替えを行っている。毎日同じ服にならないように配慮し、外出時には服を選んで頂く場合もある。整髪など身だしなみは居室の洗面台で行っており、散髪は本人や家族の希望を確認しながら定期的に行っている。 起床時の整容以外にも職員ごとに気付いた事に対しケアできている。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | <p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | <p>月1回のおやつ作り・月2回の食事作りでは食材を切る、皮むきなど出来る事を一緒に行っており、菜園で育てたきゅうりやゴーヤを使って食事作りに参加して頂く機会を作っている。 配膳や片付け等も無理のない程度に手伝って頂いている。</p> | <p>食事は調理済みの副菜が併設の養護老人ホームの厨房から届き、ホームでご飯を炊き、みそ汁を手作りする匂いが食欲をそそります。手作りの食事作りでは、焼きそば・お好み焼きなど利用者の興味を引くメニューを考え、一緒に調理して楽しみをもてるようにしています。季節ごとにプランター菜園で採れた野菜が食事に季節感をもたらしています。職員は利用者と同じ食事を食べながら、さりげなくサポートして和やかに食事ができる雰囲気を作っています。</p> | |
| 41 | | <p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> | <p>入居者一人ひとりの食事量・水分摂取量を記録し把握に努めている。摂取量の少ない方には個々に補食などを購入して頂き対応させて頂いている。 食事形態にも配慮しスタッフにより刻み食やミキサー食を用意している。個々に好きな副菜や飲み物を購入していただいている。また、必要に応じて食事介助を行っている。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ブラッシングの出来る方へは声掛けや介助を行い、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科受診を行っている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者一人ひとりに排泄チェック表を作成し排泄状況の把握に努めている。トイレ誘導の必要な方へは排泄チェック表を確認しながら、さりげなく誘導が出来るように気を付けている。紙パンツや尿取りパットの使用については個々の状態に合わせて検討し決めている。ズボンの上げ下げなど出来る部分は自分で頂くようにしている。 | 入居者の中にはほぼ自立の人もありますが、ホームでは一人ひとりの排泄状況を詳しく記録した排泄チェック表を作成しています。利用者の排泄パターンを把握するとともに、声かけ、トイレ誘導等に活かしています。昼間はできる限りトイレでの排泄ができるよう支援しています。夜間のみポータブルトイレを使用する方もあります。排泄用品を使用する場合も本人の状況により相談して決めています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 飲み込みにくい野菜は刻む等している。また、水分摂取(ヤクルト、ジュース等)を勧め体を動かしてもらえるように働きかけている。便秘が続く時には個々に処方されている下剤の量を調整し対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 時間や曜日は決めておらず、個々の体調や気分を考慮しタイミングをみて入浴して頂いている。現在のところ2、3回/週のペースである。安全に配慮し状況に合わせて無理なく行なっている。 | 利用者は平均週2～3回、入浴しています。広い浴室で、職員による見守り、あるいは介助を受け、ゆっくりくつろいで入浴を楽しむことができます。入浴剤を使用したり、季節の楽しみの菖蒲湯、ゆず湯も行っています。本人専用のシャンプーを使っている方もあります。現在は入浴をあまり好まない利用者はいない状況です。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 快適に休むことが出来るように生活習慣や室温の調整に配慮している。また、不安等の訴えには話を聞くなど安心して眠れるように支援している。本人の様子をみて昼間でもベッドで休息をとるように勧めるなどしている。夜勤者へは昼間の様子の報告など心掛けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の変更などは、その都度連絡し周知している。副作用については薬情を使用している。症状の変化についても様子を見ながら、かかりつけ医などへ相談している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | <p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p> | <p>洗濯物を丁寧にたたまれる方、テレビ、散歩、音楽鑑賞などの好きな方など、それぞれの役割や楽しみ事があり、職員もその時間を共有し見守ることで支援している。 押し付けにならない様に気を付けて、個々に合った楽しみや喜びのある対応を無理なく出来るように努めている。</p> | | |
| 49 | 18 | <p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p> | <p>スタッフの人数に影響を受けるが、散歩や買い物へは入居者と一緒に出掛け、定期的にかかれていた地域の行事へも参加出来るように取り組んでいる。外出チェック表を作り、外へ出掛ける事が少ない方の把握に努め外気浴を行っている。今後は、普段行きにくい所へ出掛ける支援もしていきたいと思う。</p> | <p>利用者が日常的な外出をしたり、少なくとも外気に触れることに力を入れています。外出チェック表を作成し、利用者の外出状態を把握し、引きこもらないよう支援しています。天気の良い日は近くの公園まで散歩、買い物などに出かけ、七夕、クリスマス、カフェ等地域の行事にも参加し、花見、紅葉なども楽しんでいます。家族との連携が強く、個別の外出は家族と自由に出かけています。ホームでも車で少し遠出の外出を立案、検討中です。</p> | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | <p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> | <p>現金は職員が預かっており、買い物の際は職員が支払いを行っている。</p> | | |
| 51 | | <p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p> | <p>本人から電話を掛けたい等の希望があれば職員がお手伝いし掛けさせて頂くことは可能である。また、本人へ届いた手紙の受け渡しや、電話の取り次ぎを行うこともある。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 室温、明るさ、換気、テレビの音量や番組、BGMなどに配慮し快適に過ごす事が出来るように考えている。リビングには大きな窓、ソファ、観葉植物、テレビなどがありゆったりくつろげるようにしています。壁にはカレンダーを飾り、一緒に遊べるゲームや音楽等も目の届く所に置いています。また食事の際には出来るだけ陶器の食器を使用し、生活感が感じられる様にしています。お気に入りの場所で過ごす方も居ます。 | ホームの玄関を入ると事務室があり、廊下側の壁に掲示されたスタッフの写真、献立表、交流のある保育園児の作品等に迎えます。ドアの先には大きな窓のリビング・ダイニングルームが広がり、キッチン側のオープンキッチン、食器棚等も目に入ります。窓から見える景色は手入れの行き届いた小庭園です。室内の鳥かごにはキンカチヨウが一羽飼われていて、ブランコに乗ったり、時々鳴き声を上げたり、利用者の家族の一員となっています。テーブル、ソファ、テレビなどがゆったりと配置され、手の届くところに雑誌、新聞などもあります。壁には大きな手芸作品のカレンダーがかかっています。利用者は三々五々、テーブルについていたり、近くの気に入りのソファに座ったり、お昼寝をしたり自由に過ごすことができます。室温、明るさ、居心地よさ等にも配慮が感じられます。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 玄関前のベンチ、廊下のベンチ、居間のソファなどがあり、思い思いの場所で過ごす事が出来るようになっている。入居者一人ひとりの様子を見て、その方に合った場所を考え案内している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 個人差はあるが使っていた物を持ってこられており、テレビ・椅子・タンス・布団等の馴染みの物を置かれている。入居後にも家族の持ってこられた飾り物やホームで撮った写真等を壁に飾り、その人にとって居心地の良い空間となるように配慮している。 | 各居室には昆虫をあしらったデザインの表札をかけています。部屋にはエアコンをはじめ、ベッド、洗面台、2室に一か所のトイレ等があります。利用者はそれぞれ自宅から使い慣れた整理ダンス、衣装ケース、机や椅子、テレビなどを持参し適宜配置しています。仏壇、遺影、家族の写真、手芸作品等を飾っている方もあり、個性的で居心地よさそうな部屋になっています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すり、廊下のじゅうたん等で歩行時の安全面が考えられている。居室内においてもベッドや家具の配置を工夫し歩行時の安全面を考えている。 | | |